

研究開発学校における小中連携、一貫教育の取組  
 (平成13年度以降に指定を受け(延長指定も含む)、研究テーマが「小・中連携」に分類されているもの)

記載内容については、原則として最終報告書から抜粋。

	都道府県	設置者	研究開発学校名 (小学校 中学校)	指定年度	研究開発課題	教育課程の特例	6・3制以外の学年区分の考え方	その他特記事項	他のテーマ分類
	【国立】								
1	東京都	国立大学法人 お茶の水女子 大学	附属小学校 附属中学校 (他、附属幼稚園)	H17～H19	幼・小・中12年間の学びの適時性と 連続性を考えた連携型一貫カリキュ ラムの研究開発 - 協働して学びを 生み出す子どもを育てる -	小学校においては教育課程を、学習分 野「ことば、市民、算数、自然、音楽、ア ート、生活文化、からだ、なかま」と創造活動 で編成する。 中学校においては、道徳・特別活動・総 合的な学習の時間を統合して、「教科・統 合」の2領域編成とするとともに、新教科 「つなぐ科」を設置する。		小・中学校において一定期間、選 択方式による授業を設定し、小学校 における学習指導要領に示す範囲 を超えて中学生とともに学ぶ場を設 ける。 小学校では1～3学年においては 協力学年担任制の中で緩やかな分 野教科担任制をとり、4～6学年では 分野教科担任制に移行する。中学 校の教科担任制による指導形態へ のスムーズな移行を図る。	幼児教育
2	新潟県	国立大学法人 新潟大学	附属長岡小学校 附属長岡中学校 (他、附属幼稚園)	H15～H17	創造的な知性と自然との共生の心 を培う「科学的な感性、科学的なも のの見方・考え方」を育む幼稚園・ 小学校・中学校の12年間を見通した 教育課程の研究開発	小学校において、教科等の時数を削減 し、新教科「自然科学科」(小1～6)「科学 探求科」(小3～6)を設置。 中学校において、総合的な学習の時間 や選択教科の時数を削減し、「科学/技術 科」「サイエンスコース」「アートコース」「コ ミュニケーションコース」を設置。 総合的な学習の時間等の時数を削減 し、小学校算数科・中学校数学科・中学校 理科において内容の付加と時数増			幼児教育、幼・小 連携 科学技術・理科教 育 既存の教科等の 充実
3			附属長岡小学校 附属長岡中学校 (他、附属幼稚園)	H22～H24	「社会的な知性」を培うための幼・ 小・中連携による協働型学習カリ キュラムと「知」の循環型教育システ ムの研究開発	小1～中3で教科や総合的な学習の時 間等の時数を削減し、新教科「社会創造 科」を設置。	幼・小・中の12年間を発達心理学や一 貫教育の先行研究の知見から、暫定的に 5つのステージに分ける ・第1ステージ:3歳児～5歳児前半 ・第2ステージ:5歳児後半～小2 ・第3ステージ:小3・4 ・第4ステージ:小5～中1 ・第5ステージ:中2・3		幼児教育 言語教育
4			附属新潟小学校 附属新潟中学校	H19～H21	「学習スキルの時間」を新設した9か 年指導プログラムとしての教育課程 と指導方法の研究開発	小1～中1で、教科等の時数を削減し、 「学習スキルの時間」を設置。			その他新教科等
5	京都府	国立大学法人 京都教育大学	附属京都小学校 附属京都中学校	H15～H17 H18～H20(延長)	(18～20年度) 「9年制義務教育学校」の設立に向 けた小中学校9年一貫教育システムの 確立に関する研究開発	教科等の時数を削減し、新教科を設 置:「英語」(小1～6)、「サイエンス」「ラン ゲージ」「アントレプレナー」(小5～中3) 小・中の教科指導領域・内容の移動(9 年一貫の教育課程を編成し、小学校課程 として示された単元・内容の中学校への 移行、中学校課程の単元・内容の小学校 への移行を行う)	現行の6・3制のような分離独立的な区 分ではなく、あくまで9年一貫教育を目指 す上での運用上の区切りとして9年間で3 つに区分する。 ・4[初等部] ・3[中等部] ・2[高等部]	小中の教科指導領域・内容の移 動あり。 小5から、教科担任制を取り入れ た学級担任制	職業教育・キャリ ア教育 その他新教科等

	都道府県	設置者	研究開発学校名 (小学校 中学校)	指定年度	研究開発課題	教育課程の特例	6・3制以外の学年区分の考え方	その他特記事項	他のテーマ分類
6	奈良県	国立大学法人 奈良女子大学	附属小学校 附属中等教育学校 (他、附属幼稚園)	H18～H20	幼・小・中等15年間にわたり、事物認識とその表現形成の徹底化を通して、独創的で「ねばり強い」思考力を育成する教育課程の研究開発	小学校における「新設活動の時間」(「もの好き」「もの発見」「もの探求」「デキゴト論究」校種間連携活動「はてな?の広場」)の新設。(教科や総合的な学習の時間の時数を削減) 中等教育学校における「創作科」(中学の技術・家庭科、美術科、音楽科、高校の家庭科、芸術科の統合教科)の設置。			幼児教育
7	広島県	国立大学法人 広島大学	附属三原小学校 附属三原中学校 (他、附属三原幼稚園)	H15～H17 H18～H20(延長)	(18～20年度) 幼小中一貫の教育力を生かした社会のグローバル化・高度情報化・超少子化の進展に対応する国際的コミュニケーション能力の育成を中心とした21世紀型学校カリキュラムの研究開発 21世紀型学力:国際的コミュニケーション能力、共同的創造力、人間関係力	小1～中3で教科等の時数を削減し、新教科「国際コミュニケーション」を設置。 小1・2年で音楽、図画工作、体育の時数を削減し、新教科「表現科」、生活の時数を削減し、新教科「発見科」を設置。 小5・6年で総合的な学習の時間の時数を削減し、選択教科の時間を設定。	・6(幼稚園年少～小3)…幼小連携の期間 ・6(小4～中3)…小中連携の期間 9歳前後の段階までは体験的・基礎的な学習を大切に、その後各教科等で専門的な指導を開始すれば、義務教育の出口である9学年で子どもたちの可能性をより引き出し、学力の確実な定着・向上を図ることができるのではないかと。 発達心理学や認知心理学の「具体的な思考から抽象的な思考に飛躍する転換期が9～10歳である」という見解を参考 いわゆる「9歳の壁」をどう乗り越えるかという教員の教育実践上の課題に着目	小4から教科担任制導入	幼児教育 英語教育
8	香川県	国立大学法人 香川大学	附属坂出小学校 附属坂出中学校 (他、附属幼稚園、附属養護学校)	H15～H17	園児・児童・生徒の生活や学びの状況に適応した教育課程を創造するため、新しい教育制度「5・4制」を実施した場合の幼稚園と小学校及び小学校と中学校の接続の在り方並びに、幼・小・中一貫した教育課程、指導方法及び評価方法について	学習指導要領中1の内容を小6で指導。 小6に、総合的な学習の時間の時数を削減して、選択教科を導入。 小学校低学年においては、教科等を総合的な学びの時間「くらし」として実施。 小3から英語科を新設。 (小学校の教科等の時数を削減)	「5・4制」を実施する。	総合的な学習の時間の一領域として小6と中1の異学年合同の時間を設ける。 小6に教科担任制導入	幼児教育、幼・小連携 英語教育 特別支援教育
9	宮崎県	国立大学法人 宮崎大学	附属小学校 附属中学校 (他、附属幼稚園)	H14～H16	「幼稚園、小学校、中学校の12年間の連続した学びの中で、豊かな人間性を養い、基礎・基本に支えられた確かな学力を培う教育課程・指導方法の研究」- 確かな自分をつくる「ふぞく・もくせいプラン」の展開 -	小・中の教科内における学習内容の再編や異学年での学習 小学校では、教科再編により「くらし科」「生活総合科」「表現科」を設置するとともに、総合的な学習の時間の時数を削減して「英語科」を実施。 中学校では、総合的な学習の時間、選択教科の時数を削減し、国語、社会、数学、理科、英語において学年卒を越えた習熟度別学習を実施。 幼・小・中におけるコミュニケーションスキル学習「もくせいの時間」を創設。(総合的な学習の時間の時数を削減)		小学校で一部教科担任制	幼児教育、幼・小連携 英語教育 既存の教科等の充実 学年を越えた習熟度別指導
【公立】									
10	北海道	鹿追町	鹿追小、瓜幕小、通明小、上幌内小、笹川小 鹿追中、瓜幕中 (他、北海道鹿追高)	H15～H17 H18～H20(延長) H21～H23(新たな研究テーマで指定)	(21～23年度) 環境問題の解決を目的に地球市民の育成を図るために環境教育プログラム「地球学」の小中高連携した研究開発	小学校では、生活や総合的な学習の時間の時数を削減し、新教科「地球科」を設置。 中学校では、総合的な学習の時間の時数を削減し、新教科「地球学」を設置。 中3では、主に選択教科の時間を減じて新教科「実社会数学」を設置。		中・高は連携型中高一貫教育校	中高連携 科学技術・理科教育

	都道府県	設置者	研究開発学校名 (小学校 中学校)	指定年度	研究開発課題	教育課程の特例	6・3制以外の学年区分の考え方	その他特記事項	他のテーマ分類
11	山形県	小国町	小国小、白沼小、叶水小、伊佐領小、玉川小、玉川小足中分校、小玉川小、沖庭小、北部小 小国中、白沼中、叶水中、玉川中、小玉川中、北部中 (他、県立小国高)	H13～H15 H16～H18(延長)	(13～15年度) 地域が一体となって取り組む連携型中高一貫教育を中心とした小中高連携教育の研究 - 国際理解教育、情報教育における小中高連携した新たな必修教科の研究 -	小1～中3において、総合的な学習の時間の時数を削減して、国際化・情報化に関する新教科「国際・情報」を実施(小1・2は生活科の中で扱う。)		既存の教科等における小中高間の連携した取組を実施する。(異校種教員のTT、異校種間の合同授業等) 中・高は連携型中高一貫教育校	中高一貫、連携教科・領域の構成及び内容の見直し 外国語・情報 地域との連携、企業との連携
12	栃木県	栃木市	皆川城東小学校 皆川中学校	H17～H19	国際社会に貢献することのできる児童生徒の育成を目的とした、9年間を見通した小中一貫教育の教育課程の編成の在り方についての研究開発	総合的な学習の時間の時数を削減し、「英語科」(小1～6)、「ことのはの時間」(小1～中3)、「生き方科」(小3～中3)を設置。			英語教育 その他新教科等
13		上三川町	本郷小、本郷北小 本郷中学校	H22～H24	持続可能な社会の構築を目指して、児童・生徒がよりよい自然環境・社会環境の創造活動に主体的に参加し、環境への責任ある行動をとることができる態度を育成するために、新教科「みらい創造科」を設置し、その教育課程及び評価方法等の研究開発を行う。	小1～中3で、生活や総合的な学習の時間の時数を削減し、新教科「みらい創造科」を設置。			環境
14	埼玉県	春日部市	粕壁小学校 春日部中学校	H15～H17 H18～H20(延長)	(18～20年度) 小学校に英語科を創設した場合の、系統性をもった小学校・中学校9か年の英語科教育課程の創造	小学校において、総合的な学習の時間の時数の削減等により、新教科「英語科」を設置。 中学校において、総合的な学習の時間の時数を削減し、外国語の時数を増加。			英語教育
15	千葉県	成田市	成田小学校 成田中学校	H12～H14(小のみ) H15～H17(延長) H18～H20(延長)	(18～20年度) 小・中学校9年間の英語科学習において、効果的に確かな英語の力を身につけるための教育課程・指導方法を明らかにする研究開発	小学校において、教科や総合的な学習の時間の時数を削減し、「英語科」を設置。 中学校において、総合的な学習の時間の時数を削減し、英語科の時数を増加。			英語教育
16		船橋市	若松小学校 若松中学校	H21～H23	小学校、中学校の9年間を通じて基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、学習内容の移行、統合を含めた児童生徒の心身の発達を踏まえた教育課程の研究開発 - 児童生徒のコミュニケーション能力の育成や「人間としての在り方生き方」教育の視点から教育課程の再構成 -	小学校において、生活や総合的な学習の時間の時数を削減し、「英語科」を設置。 小3～中3において、総合的な学習の時間、選択教科の時数を削減し、新領域「在り方生き方」を設置。	第 期～第 期に分け、確かな学力の育成と中1ギャップの解消を図る。 ・4[第 期]...児童の状況、実態を踏まえながら基礎的・基本的な知識・技能の定着や学習習慣を確立する。 ・3[第 期]...基礎的・基本的な知識・技能を活用し、解決する学習内容を明らかにし、思考力、判断力、表現力等を育成する。 ・2[第 期]...自ら課題を設定し、思考力、判断力、表現力を生かして解決していく主体的な学習態度を育成する。	若松小中学校は船橋市の小中一貫教育のパイロット校 9年を4・3・2の3期に分け、各期ごとのまとまりを意識するとともに9年間を見通し、それぞれの心身発達を踏まえたカリキュラムに再構成する。 小5・6の一部教科(理、英、図、音)で教科担任制を導入	その他新教科等

	都道府県	設置者	研究開発学校名 (小学校 中学校)	指定年度	研究開発課題	教育課程の特例	6・3制以外の学年区分の考え方	その他特記事項	他のテーマ分類
17	東京都	品川区	伊藤小、上神明小 富士見台中学校	H13～H15	確かな学力の定着を図るとともに個性豊かで様々な能力をもつ児童・生徒を育てるため、小学校と中学校との継続指導を含め、個々の児童・生徒の適性・能力に応じた指導を行い、その資質・能力が一層発揮、伸長されることを目指した教育課程の一体的編成の在り方を縦断的に研究する。	小1～中3において、教科の枠を柔軟化し、言語系、自然系、社会教養系、健康系、芸術系の5つの系に再編し、方法習得型のクロスカリキュラム「系の学習」を実施。 「系の学習」の発展として、小学校で「スキルアップ学習」を実施。 (総合的な学習の時間の時数を削減)			教科・領域の構成及び内容の見直し
18		品川区	第二日野小学校 日野中学校	H14～H16 H17～H19(延長)	(17～19年度) 小中学校9年間の一貫した系統的な教育課程や指導方法、研究システム及び評価に関する研究開発	総合的な学習の時間等の時数を削減し、新教科等「英語科」(小1～中3)、「市民科」(小1～中3)、「ステップアップ学習」(小5～中3)を設置。	9年間で4・3・2のまとまりに区分する。 ・4[基礎・基本の定着] ・3[基礎・基本の徹底] ・2[自学自習の重視] 既存の制度に子どもたちを合わせるのではなく、子どもたちの成長に制度を作り変えた。 子どもの心理的・身体的な発達や行動面を追うと、5年生頃を境に大きな変化が見られる。この時期は、具体的思考から抽象的思考へ移行する時期であり、心が揺れ動き不安感が強くなる時期でもあり、身体的な変化も大きい。	品川区小中一貫教育要領に基づいて全教科のカリキュラムを再編成して実施 小5から教科担任制を実施	英語教育 その他新教科等
19		大田区	矢口小学校 蒲田中、安方中	H16～H18	これからの社会を生きていくために必要な技術的素養(テクノロジーリテラシー)の育成を重視する新教科(Technology Education)の教育課程等の研究開発	小1～中3において、教科等の時数を削減し、新教科(Technology Education)を設置			その他新教科等
20	神奈川県	横浜市	西前小、岸谷小、立野小、釜利谷西小、桂小 西中、生麦中、仲尾台中、西金沢中、奈良中	H18～H20	国際化・情報化が急速に進展する時代に必要な「生きる力」である、コミュニケーション能力の基礎を育むため、小中一貫教育の視点から、小中学校9年間を見通した英語教育の教育課程や指導方法及び評価方法について研究開発を行う。	小学校において、全学年で「英語科」を実施(時数の増加により実施)。 中学校において、総合的な学習の時間や選択教科の時数を削減し、外国語の時数を増加。			英語教育
21		南足柄市	北足柄小、南足柄小、福沢小、岡本小、岩原小、向田小 北足柄中、南足柄中、岡本中、足柄台中(他、北、南足柄、福沢、岡本、むつみ幼稚園)	H19～H21	夢と希望に向け、粘り強く自分の道を切り開く子どもの育成を旨とした、幼稚園・小学校・中学校の一貫教育を推進する教育課程の開発	小学校において、総合的な学習の時間等の時数を削減し、英語活動を教育課程に位置づける。 中学校において、総合的な学習の時間や選択教科の時数を削減し、英語の時数を増加。 体験的で地域をステージとし、道徳・特別活動・総合的な学習の時間を有機的に結合した新教科「きらり」の創設(小1～中3)	幼・小・中11年間で4つの区分に分ける。 ・2[自立感の支え期] ・4[基礎・基本期] ・3[充実期] ・2[発展期] 幼稚園年少及び年長は11年間の基礎となっている。 小学5年生の夏休みから子どもの変化が見られる。 既に実施している小学校英語活動の反省からは、小学5年生から知的欲求が高くなる。 中学校では、中学2年生から精神的な成長が見られる。	幼・小・中の一貫性を図る教科カリキュラム等の再編成(発達の段階に応じた連続性を重視し、校種間のなめらかな接続や読解力の育成も視野に入れ、9年間の単元系統配列一覧表を作成)	幼児教育 英語教育 その他新教科等 既存の教科等の充実

	都道府県	設置者	研究開発学校名 (小学校 中学校)	指定年度	研究開発課題	教育課程の特例	6・3制以外の学年区分の考え方	その他特記事項	他のテーマ分類
22	新潟県	新潟市	上所小、女池小 鳥屋野中学校	H19～H21	これからの社会を生きる上で必要な「人間力」を育成するために、言葉と体験を重視し発達段階に即した小・中学校9年間一貫教育課程の研究開発	小1～中3で、教科や総合的な学習の時間等の時数を削減し、新教科「言語技能科」「社会技能科」を設置。 小学校で「英語表現の時間」を実施(小1・2は学級活動の一部等として実施、小3～6は総合的な学習の時間の時数を削減して実施)	適時性の視点から、9年間で3つに区分し、情緒面及び認知・思考面の発達段階に即した指導内容の重点化と指導法の工夫を図る。 ・4[前期]...具体的思考力を高める時期 ・3[中期]...具体的思考から抽象的思考への円滑な移行を図る時期 ・2[後期]...個性の伸長と主体的学習力を高める時期		英語教育 論理力・思考力の育成のための新教科 既存の教科等の充実
23		三条市	長沢小、荒沢小 下田中学校	H19～H21	「豊かな未来を切り拓く力をはぐくむものづくり学習」～地域の「ひと・もの・こと」とかかわる学習を通して～	小1～中3で、教科や総合的な学習の時間等の時数を削減し、新領域「ものづくり学習の時間」を設置。			科学技術・理科教育 職業教育・キャリア教育 その他新教科等
24	石川県	金沢市	南小立野小学校	H12～H14 H15～H17(延長)	(15～17年度) 小学校における「英語科」について、より子どもの側に立った目標、内容、指導方法を追求し、これを他の小学校へ普及させること、及び中学校への円滑な接続をすることを目的とした研究開発を行う。	総合的な学習の時間の時数の削減等により、小学校全学年に英語科を設置			英語教育
25	岐阜県	多治見市	笠原小学校 笠原中学校	H15～H17 H18～H20(延長)	(18～20年度) 「実践的コミュニケーション能力の育成を図るための小中の接続を踏まえた笠原型コンテンツ・ベイスの手法による英語教育の在り方」に関する研究開発	生活や総合的な学習の時間の時数を削減し、小学校において「E学習(英語学習)」、中学校「コンテンツ学習」を設定。	児童生徒の発達段階や興味・関心、英語活動の経験年数を考慮して、幼稚園・保育園から中学校までを4つの段階に区切る。 ・STAGE1(幼・保～小1) ・STAGE2(小2～4) ・STAGE3(小5～中1) ・STAGE4(中2・3) 特にSTAGE3は小5・6と中1の3ヶ年とし、小中の接続を一層意識した指導を展開。		英語教育
26	愛知県	西尾市	寺津小学校 寺津中学校	H16～H18	小中一貫教育をめざし、新設教科「ABC」及び「食育科」の9年間を見通した教育課程、指導方法及び評価方法のあり方に関する研究開発	小1～中3において、教科や総合的な学習の時間等の時数を削減し、新教科「ABC」「食育」を設置。	・4[感覚や知識の体得期(ファーストステージ)]...人間として備えなければならない感覚と基本的な知識や技能を体験や反復練習等で身につける。 ・3[知識や問題解決力の習得期(セカンドステージ)]...専門的な知識や技能に触れ、自己を見つめ、他者と関わることで、問題の解決方法を学習する。 ・2[問題解決力や生き方の獲得期(サードステージ)]...広い視野に立ち、知識や技能を総合的に活用し、学びの成果を実践するとともに、自己の生き方を探る。 新教科を中心に取り入れ。	小1から一部教科担任制	英語教育 その他新教科等
27	滋賀県	高島市	高島小学校 高島中学校	H19～H21 H22(1年延長)	(19～21年度) 自己実現を図り、よりよく生きようとする力を育成するため「未来(ゆめ)の時間」を設置し、地域や児童生徒の実態を踏まえ、体験的な学習を核にした義務教育9年間の小中一貫教育の教育課程についての研究開発	小1～中3で、生活や道徳、特別活動、総合的な学習の時間の時数を削減し、新領域「未来(ゆめ)の時間」を設置	9年間で3つに分け、学習内容に系統性を持たせながら、発達段階及び小中のギャップ解消に考慮した教育課程を研究開発する。 ・4[ステージ1:学習・生活における基礎基本] ・3[ステージ2:発展的な学習] ・2[ステージ3:自分の将来・地域の未来を考える生き方学習]	小5・6において一部教科担任制を導入	職業教育・キャリア教育 その他新教科等

	都道府県	設置者	研究開発学校名 (小学校 中学校)	指定年度	研究開発課題	教育課程の特例	6・3制以外の学年区分の考え方	その他特記事項	他のテーマ分類
28	京都府	八幡市	八幡小、八幡第二小、さくら小、八幡第四小、橋本小、有都小、中央小、南山小、美濃山小 男山中、男山第二中、男山第三中、男山東中	H20～H22	効率的で効果的な指導方法の研究開発～基盤技術の定着とシティズンシップ教育の研究を通して～	小1～中3で、生活や総合的な学習の時間等を削減し、新教科「総合基礎科」「やわた市民の時間」を設置。			その他新教科等
29	大阪府	寝屋川市	三井小、明德小、宇谷小 第十中学校	H15～H17	自由な発想を喚起する理科教育を中心とした小学校と中学校の一貫教育に関する研究開発 理科・英語・情報教育を中心とした小中一貫教育のあり方の研究	小学校では、総合的な学習の時間の時数を削減し、小6で理科の時数増、小5・6で英語科設置。 中学校では、選択教科の時数を削減し、理科・外国語の時数増。			英語教育 科学技術・理科教育 情報教育 既存の教科等の充実
30		河内長野市	天野小、高向小 西中学校	H12～H14(天野小のみ) H15～H17(天野小・西中、延長) H18～H20(2小1中、延長)	(18～20年度) 国際社会に生きる表現力豊かな子どもの育成をめざした小・中学校9年間を見通した英語教育の教育課程・指導方法・評価に関する研究開発	小学校において、教科や総合的な学習の時間等の時数を削減し、新教科「英語科」を設置。 中学校において、総合的な学習の時間や選択教科の時数を削減し、「外国語」の時数を増加。	子どもの発達段階等を考慮して小・中学校9年間を3つに区分し、英語科のカリキュラムを開発する。 ・4【前期】 ・3【中期】 ・2【後期】		英語教育
31		千早赤阪村	赤阪小、千早小、多聞小、小吹台小 中学校 (他、こごせ幼稚園)	H14～H16(赤阪小、こごせ幼のみ) H17～H19(延長)	(17～19年度) 幼・小・中の11年間において、英語活動・情報活動の系統化したカリキュラムのもと、「国際化・情報化に対応したコミュニケーション能力の増進を図る指導内容・指導方法の研究開発」をする。	小学校において、教科や総合的な学習の時間等の時数を削減し、新教科「英語科」「情報科」を設置。 中学校において、総合的な学習の時間に「総合英語」の設置。	英語においては、以下の4期でのカリキュラム編成等を行う。 ・第 期(年中、年長、小1) ・第 期(小2～4) ・第 期(小5～中1) ・第 期(中2・3)		幼児教育 英語教育 情報教育
32		東大阪市	意岐部小、意岐部東小 意岐部中学校	H19～H21	「自分の夢・生き方を創りつづけることができる子」の育成をめざし、小・中一貫して取り組む「夢づくり科」の教育課程およびその効果測定方法の完成	小1～中3で、生活や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の時数を削減し、新教科「夢づくり科」を設置。	幼・小、小・中と進級していく過程で、子どもたちにとって大きな段差があると考えられる。これまで進めてきた小・中連携や地域連携をさらに進め、幼稚園から中学校までを一続きの発達と捉え、4つのステージに分ける。 ・ステージ1-1(幼稚園年少、年長、小1) ・ステージ1-2(小2～4) ・ステージ2(小5～中1) ・ステージ3(中2、3)		職業教育・キャリア教育 その他新教科等
33		松原市	恵我小、恵我南小 松原第七中学校	H19～H21 H22(1年延長)	(19～21年度) いじめや不登校の予防及び学校復帰支援を行うための小・中連携した教育課程とその指導方法・評価及び学校・教職員・生徒集団のあり方についての研究開発	小3～中3で、総合的な学習の時間等の時数を削減し、新教科「人間関係学科」を設置。(小1・2は教育課程を変更せず、特別活動等の時間内で実施)			その他新教科等 不登校・生徒指導
34		箕面市	止々呂美小学校 止々呂美中学校 (と どろみの森学園)	H20～H22	国際社会の中でたくましく生きる子を育てるために、ことばの力と論理的思考力をもとにした「コミュニケーションの力」と、地域での体験をもとに自分を見つめ、生き方を考える「自己の確立を図る力」を育むための小中一貫した教育課程及び指導方法の研究開発	小1～中3で、国語や総合的な学習の時間等の時数を削減し、新教科「コミュニケーション科」「英語活動科」とどろみタイム科(小3～中3)」を設置	子どもの発達段階に即して9年間を3期に区分 ・4【前期】...基礎基本の定着、反復、生活習慣・学習週間の定着 ・3【中期】...基礎基本の徹底、思春期の課題に対応 ・2【後期】...自主・自立の態度の育成	小5から教科担任制を段階的に導入	英語教育 言語教育 既存の教科等の充実

	都道府県	設置者	研究開発学校名 (小学校 中学校)	指定年度	研究開発課題	教育課程の特例	6・3制以外の学年区分の考え方	その他特記事項	他のテーマ分類
35		高槻市	富田小、赤大路小 第四中学校	H22～H24	小・中学校間の連携による、発達段階に応じた9年間の系統的な指導法の開発及び新領域の研究	小1～中3で、生活や道徳、総合的な学習の時間の時数を削減して、新領域「実生活の時間」を設置	9年間で3つの発達段階の区切りで捉え、各段階における到達目標を設定し、新領域、国語科、算数・数学科のカリキュラム作成だけでなく、学習規律や「学び方」の視点を整理する。 ・4【前期】 ・3【中期】 ・2【後期】	国語、算数・数学における9年間のカリキュラム編成 小5～中1で、小中学校教員の協働による指導	職業教育・キャリア教育
36	兵庫県	神戸市	本山中学校	H15～H17	通常の学級に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症等、特別な教育的配慮が必要な生徒への指導の在り方および支援体制の確立についての研究	現行の通級による指導の枠を越える教育課程の編成 通常学級の教育課程について、「ユニバーサル」な教育環境づくりを目指した教育課程の編成(LD児だけでなく、すべての生徒が学ぶ楽しさや喜びを味わえるような教育課程)：総合的な学習の時間等の時数の削減等による選択教科、保健体育等の時数増		特別支援教育における近隣小との連携を実施	特別支援教育
37	和歌山県	橋本市 下津町(現海南市) 大塔村(現田辺市) すさみ町	西部小、紀見小、境原小、城山小 西部中、紀見東中 下津小学校 下津第一中学校 三川小、富里小、鮎川小 大塔中学校 周参見小学校 周参見中学校	H15～H17 (4市町村合同)	小学校と中学校の連続性を強め、「生きる力」を身につける基礎的な力と個性を生かし伸ばす教育課程、指導方法の研究開発を行う。	小・中学校において、教科等の時数を削減し、「スキル学習(ベーシック、コミュニケーション、IT、ソーシャル)」「夢」「Will」を設置。(導入学年は学校により異なる。)		小5から教科担任制(小5は緩和学年とし、一部教科担任制)	英語教育 情報教育 その他新教科等
38	広島県	呉市	五番町小、二河小(19年度統合「呉中央小」) 二河中学校(19年度校名変更「呉中央中」)	H12～H14 H15～H17(延長)	(15～17年度) 豊かな人間性と自立心の育成を目指し、児童生徒の発達段階に即した小中学校を一貫した教育課程・指導方法及び研究システム・評価の開発	小5から選択教科導入。 小5～中1で、総合的な学習の時間の時数を削減し、「英会話の時間」を設置。 小1～中3で、生活や総合的な学習の時間、選択教科の時数を削減し、「生き方学習」(進路と人間関係)を設置。	心身の発達の加速化、学力形成の特質、生徒指導上の諸課題の顕在化をもとに9年間で3区分に分ける。 ・4【前期】…基礎・基本を繰り返して習熟を図る反復期 ・3【中期】…基礎・基本を生かして論理的思考力を養う活用期 ・2【後期】…基礎・基本を応用して個性の伸長を図る発展期	小学校で部分的教科担任制	-
39		庄原市	庄原小学校 庄原中学校	H17～H19	教育活動全体を通じて小・中一貫したキャリア教育を推進する教育課程、及びキャリア教育で培いたい4能力領域を明確にした指導内容の研究開発 4能力領域：人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力	小1～中3で、生活や特別活動、総合的な学習の時間の時数を削減し、新教科「キャリア科」を設置。			その他新教科等 職業教育・キャリア教育



	都道府県	設置者	研究開発学校名 (小学校 中学校)	指定年度	研究開発課題	教育課程の特例	6・3制以外の学年区分の考え方	その他特記事項	他のテーマ分類
40		北広島町	八幡小、雄鹿原小、 芸北小、雲月小、美和 小 芸北中学校 (他、八幡幼稚園、芸北 幼稚園、県立加計高芸 北分校)	H17～H19	小学校段階から「ことばの技能科」、 「英語科」を新設した場合の(保)幼 小中高13年間の一貫・系統性ある 教育課程についての研究開発	小学校において、教科や総合的な学習 の時間の時数を削減し、新教科「ことばの 技能科」「英語科」の設置や算数の時数増 に充てる。 中学校英語の一部の学習内容を小学 校に移行。 中学校において、総合的な学習の時間 の時数を削減し、新教科「ことばの技能 科」を設置。 中学校において、選択教科の時数を削 減して、コース選択による数学、英語の時 数増に充てる。	保・幼～高の13年間で3つに区分する。 ・5【導入期】(保・幼～小4)...10歳頃を境 として、身体的・生理的に大きな変化が見 られ、また、「肯定的な自己認知」や「自尊 感情」がこの時期急に低くなる傾向にあ る。 ・4【充実期】(小5～中2)...次第に論理的 思考や抽象的思考が芽生え、行為の動 機やその課程も考えることができるよう になる。 ・4【発展期】(中3～高3)...これまでの「連 携型中高一貫教育校」の取組を生かし、 中高の接続を重視するという観点から区 分。	中・高は連携型中高一貫教育校	幼児教育 中高連携 英語教育 その他新教科等 学年を越えた習 熟度別指導
41		廿日市市	宮島小学校 宮島中学校	H20～H22 H23(1年延長)	(20～22年度) 児童生徒の「生きる力」を育てるた めに、キャリア教育を基盤として、伝 統や文化の理解や国際理解を中心 に地域の特色を生かした計画的・組 織的・継続的な教育活動を展開す ることによる義務教育9年間を見通 した教育課程、指導方法の研究開 発	小1～中3で、教科や総合的な学習の時 間等の時数を削減し、新教科「将来設計 科」「国際コミュニケーション科」「地域伝統 科」を設置	・4【前期】 ・3【中期】 ・2【後期】	小5から教科担任制実施(小3か ら一部教科において実施)	職業教育・キャリ ア教育 その他新教科等
42	香川県	直島町	直島小学校 直島中学校	H14～H16 H23～H25	(14～16年度) 児童生徒一人ひとりの「生きる力」を 育むために、一部に5・4制を取り入 れて9年間の一貫教育とした場合の 教育課程、指導方法の研究開発	総合的な学習の時間等の時数を削減し て、「英語科」(小1～6)、「表現科」(小1～ 中3)、「選択教科」(小6)を設置。 小6の音楽、図画工作、体育、選択教科 では、中学校の内容も加え、教材も興味 関心の高い、より専門的なものを活用す る。 小6の算数では、中学校の内容を一部 指導。	身体の発達の加速化、思春期の精神 的に不安定で人間関係が大きく変わる時 期、子どもが持つ小中学校間の精神的な 壁などを考慮し、5年生までを一つの区切 りと捉える。 ・5【前期】 ・4【後期】 英語科、表現科、音楽、図画工作・美 術、体育、選択教科、算数・数学で実施。 完全実施すると、「小6ギャップ」が起き る可能性もあることから、一部で導入。	英語科、音楽科、図工・美術科、 体育科、選択教科において、小6が 全課程を中学校に出向き、中学校 教員による指導を受ける。 算数・数学において小6・中1合同 の習熟度別学習、課題別学習を取り 入れ、小中学校の教員が協力し て指導。 小6の音楽、図画工作、体育、選 択教科、算数で教科担任制実施。	英語教育 学年を越えた習 熟度別指導
43		琴平町	琴平小、榎井小、象 郷小 琴平中学校	H21～H23	郷土を愛し、まちづくりに主体的に 参画できる子どもを地域と一体と なって育てることを目指した研究開 発	小1～中3で教科や総合的な学習の時 間等の時数を削減し、新教科「まちづくり 科」を設置。	小・中学校を3段階に区分し、それぞ れの発達課題を見据えて「まちづくり科」を9 年間通して設定 ・4【基礎確立期】 ・3【自己発見期】 ・2【自律期】		その他新教科等
44	高知県	田野町	田野小学校 田野中学校 (他、田野幼稚園)	H14～H16	国際社会に生きる力をはぐくむた め、幼稚園(年長)、小学校、中学校 の10年間を見通した英語教育の課 程・指導方法の研究開発	小学校において、生活や総合的な学習 の時間の時数を削減し、「英語科」を設 置。 小1・2に総合的な学習の時間を設定(う ち2時間を国際理解に充てる。)	英語学習において、幼稚園年長から中 学校までの10年間で3段階に分ける。 ・初期(揺籃期:英語活動開始後3～4年) ・中期(転換期:同4～6年) ・後期(発展期:同6年以降)		幼児教育、幼・小 連携 英語教育



	都道府県	設置者	研究開発学校名 (小学校 中学校)	指定年度	研究開発課題	教育課程の特例	6・3制以外の学年区分の考え方	その他特記事項	他のテーマ分類
45	熊本県	宇土市	網田小学校 網田中学校	H17～H19 H20～H22(延長)	(20～22年度) 自立心と豊かな人間性をはぐくむための、児童生徒の発達段階に応じた小中学校の一貫した教育課程・指導方法に関する研究開発	生活や総合的な学習の時間の時数を削減し、「人との関わり体験科」(小1～中3)、「創造表現科(表現活動(小3～中3)・英会話(小1～中3))」、「そろばんの時間」(小3～中3)を設置。	児童生徒の身体、認知・思考、精神面の発達の現状に即して、義務教育9年間で3段階に分け、一貫した指導を行う。 ・4[前期]…学習訓練の徹底を図り、具体的思考力を高める時期 ・3[中期]…具体的思考から抽象的思考への円滑な移行を図り、自己学習力を高める時期 ・2[後期]…抽象的思考力を伸ばし、主体的学習力を高める時期	小5から一部教科担任制	英語教育 職業教育・キャリア教育 その他新教科等
46		天草市	一町田小学校 河浦中学校	H18～H20	脳科学的知見を取り入れ、新設教科による小・中学校の9年間を見通した教育課程の編成、及び指導の在り方等に関する研究開発	小1～中3で、総合的な学習の時間等の時数を削減し、新教科「創才はぐくみ科」を設置。	域内の保育所・幼稚園との協力体制を整え、児童生徒の発達段階を3つに区分する。 ・[第 期](5歳児～小2) ・[第 期](小3～5) ・[第 期](小6～中3) 児童生徒の発達の差異を考慮 校種の変わる段階の接続を考慮		その他新教科等
47	大分県	宇佐市	院内中部小、院内北部小、南院内小、安心院小、津房小、深見小、佐田小 院内中、安心院中 (他、県立安心院高)	H22～H24	世界基準の確かな学力を育成する小中高一貫した系統性ある教育課程の創造～読解力を基盤とした「リテラシー」の獲得～	小1～4で、教科や総合的な学習の時間の時数を削減し、新教科「ことばの不思議科」を設置。 小5～中2で、教科や総合的な学習の時間の時数を削減し、新教科「不思議探求科」を設置。 中3～高3で、教科や総合的な学習の時間の時数を削減し、新教科「未来探求科」を設置。 中3・高1で、数学・英語等の時数を削減し、「BSタイム英語」「BSタイム数学」を設置。	小中高の円滑な移行を図るため、発達段階に応じて12年間で4段階に分け、指導内容の重点化や工夫を図る。 ・2[KEY STAGE1](小1・2)…あそびを通して学び、ことばに親しむ導入期 ・2[KEY STAGE2](小3・4)…分析・表現力を育成するためのことばの基礎を作る基礎期 ・4[KEY STAGE3](小5～中2)…読解力・課題探求能力を育成する充実期 ・4[KEY STAGE4](中3～高3)…論理的な思考力・表現力や課題解決能力を育成する発展期 就学前とのつながりを視野に入れ、KEY STAGE1・KEY STAGE2を分ける。 小4と小5では、複数の情報の整理や問題発見、根拠を立てる道筋等においてギャップがあるためKEY STAGE2・KEY STAGE3を分ける。 「自己概念」ができる部分を境としてKEY STAGE3・KEY STAGE4を分ける。	中・高は連携型中高一貫教育校	中高連携 言語教育
48	沖縄県	那覇市	全市立小学校35校 全市立中学校17校	H15～H17 H18～H20(延長)	(18～20年度) コミュニケーション能力を「人と関わる力」、「相手を理解し、自己を表現する力」と捉え、小・中学校9年間を見通し、児童・生徒のコミュニケーションに対する積極的な態度の育成と、英語によるコミュニケーション能力の育成を目的として、教育課程の弾力的な編成方法、指導方法、評価方法等の開発する。	小学校において、総合的な学習の時間や他教科の時数を削減して、「英語活動」を設置。 中学校において、総合的な学習の時間や選択教科の時数を削減して、外国語の時数を増加。			英語教育

	都道府県	設置者	研究開発学校名 (小学校 中学校)	指定年度	研究開発課題	教育課程の特例	6・3制以外の学年区分の考え方	その他特記事項	他のテーマ分類
49		南城市	全市立小学校9校 全市立中学校5校	H19～H21	国際化時代に必要な積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をはぐくむため、小中学校9年間を見通した英語教育の効果的な指導方法及び指導内容についての研究開発	小学校において、教科や総合的な学習の時間等の時数を削減して、「英語活動」を設置。 中学校において選択教科及び総合的な学習の時間の時数を削減して、外国語の時数を増加。			英語教育
【私立】									
50	宮城県	学校法人聖ウルスラ学院	英智小学校 英智中学校	H19～H21	「論理的な思考力・考える力」に基づく表現力(=PISA型「読解力」)を育むため、「言語技術科」の教育課程の研究開発及び小・中9年間全教科における「読解力」に基づく学習指導についての研究開発	総合的な学習の時間等の時数を削減し、小1～中2で、新教科「言語技術科」を設置。	・4[Firstステージ]...基礎・基本の学力を身につける時期。即ち自ら学習課題が分かり、学習計画を立てて、調べる・まとめる・発表するといった自己学習ができるようになる時期 ・3[Secondステージ]...身につけた自己学習力を使いさらに学力の充実をはかる時期。特に集団の中の関係性が複雑になり、より深く広い社会性を身につけていく時期であり、同時に内面においても論理的な思考力が深まっていく時期。 ・2[Thirdステージ]...心身が充実し、学力の応用・発展がなされ、高校の内容も先取り学習できている時期。		英語教育 論理力・思考力の育成のための新教科
51	千葉県	学校法人暁星国際学園	暁星国際小学校 暁星国際中学校 (他、暁星国際高)	H13～H15 H18～H20	(18～20年度) 変化の激しい社会を生き抜く知識、技能、感性、体力を育むために、学校の中に「校内学校」方式で全寮制の小・中・高等学校の異年齢集団による小さな「学びの共同体」を作る場合の小中高一貫の教育課程・指導方法・評価方法に関する研究開発	教科枠を再編し、個に応じて教育課程を弾力的に運用：小・中学校において、教科や総合的な学習の時間の時数を削減して、「バイリテラシー科」(小4～中3)「数理リテラシー科」(小4～中3)「新リベラル・アーツ科」(小3～中3)「個人研究の時間」(小4～中3)を設置。 一部欧米の教科書を用いて英語で授業を実施。		「校内学校」方式によるコース制：本研究による教育を望む児童・生徒・保護者に限定 異年齢・異校種の学習集団の編成	中・高連携 その他新教科等
52	兵庫県	甲南幼・小、甲南中・高、甲南女子中・高、それぞれ別法人	甲南小学校 甲南中、甲南女子中 (他、甲南幼稚園、甲南高、甲南女子高)	H13～H15	「人と人、人と自然、人と社会の共生」を目指す環境教育を、幼・小・中・高・大の18年一貫教育を通して展開する教育研究開発	小学校において、教科等の時数を削減して、新教科「統合環境」を設置。 甲南中：中2で技術・家庭科の時数を削減し、新教科「地球と環境」を設置。中3で理科から環境分野を独立させ、新教科「生命と環境」を設置。中1～3で、総合的な学習の時間の時数を削減し、「情報活用」を設置。 甲南女子中：中1で理科・技術・家庭科の時数を削減し、新教科「環境」を設置。中2で技術・家庭科の時数を削減し、新教科「環境」を設置。			幼小連携 中高一貫、連携 高大連携